

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第1節 利用制限の基準作成

- 利用制限のガイドライン・基準づくりと利用者への周知
- 利用制限下における利用継続に向けた工夫
- ボランティアへの配慮

生涯学習センター	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止と社会教育施設等での活動の両立を進めるために、「新しい生活様式に基づく新潟市社会教育施設等利用ガイドライン」を作成し、ホームページ掲載や活動団体へ周知した。 ・施設内に手指用消毒液を設置し、館内放送やチラシによる感染予防の周知、「新潟県新型コロナウイルスお知らせシステム」の登録周知を行った。講座や事業実施の際には、検温や手指の消毒、社会的距離の保持(必要以上の会話の回避)、座席の確認などをお願いした。受講者へのお願いの告知、受講時の座席番号の把握などを行った。 ・生涯学習ボランティアについては、新型コロナウイルス感染症への不安もあり、初心者パソコン教室や生涯学習相談は中止とした。令和3年度の活動再開へ向けて生涯学習ボランティア研修会の開催やボランティアと共に活動ガイドラインを作成した。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度から引き続き「新しい生活様式に基づく新潟市社会教育施設等利用ガイドライン」の周知や、施設内や講座等の事業実施時の感染症予防対策を行った。 ・生涯学習センターボランティアによる「学習相談」や「初心者パソコン教室」については、活動ガイドラインに添って感染症予防対策を行いながら、活動を再開した。
	成果と課題	<p>生涯学習センターボランティアは、活動ガイドラインに添って感染症予防対策を行いながら、活動を再開することができたが、学習相談や初心者パソコン教室では参加者が少なくなっている。社会情勢に合わせた、生涯学習センターボランティアの活躍の場と支援のあり方を検討する必要がある。</p>
中央公民館	R2年度に実施したこと	<p>公民館のサークル利用にあたっては、教育委員会の社会教育施設で策定した「新しい生活様式に基づく新潟市社会教育施設等利用ガイドライン」に基づき、施設側と利用者双方が感染対策を講じながら、活動を継続できるよう取り組んだ。</p>
	R3年度に実施したこと	<p>公民館のサークル利用にあたっては、教育委員会の社会教育施設で策定した「新しい生活様式に基づく新潟市社会教育施設等利用ガイドライン」に基づき、施設側と利用者双方が感染対策を講じながら、活動を継続できるよう取り組んだ。</p>
	成果と課題	<p>感染の拡大状況に応じ、休館や利用基準を迅速に決定することに苦慮した。</p>
中央図書館	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「新潟市立図書館 感染拡大防止ガイドライン」を策定し、図書館HPで周知した。 ・臨時休館中は、電話やメールでレファレンス受付を行った。臨時休館終了後、予約本のための貸出から段階的にサービスを再開。様々な感染症対策を講じながらサービスを行い、また、在宅時間充実のため、貸出冊数・期間を拡大した。 ・読み聞かせボランティア等には、感染症対策の徹底を行い、活動をお願いしている。ブックスタートボランティアは、健診の運営主体である区役所と調整し、段階的に再開していく。 ・対面朗読サービスは、密を避けるため、広い部屋で距離を取って行った。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休館中は、電話やメールでのレファレンスに対応したほか、予約本の貸出サービスを中断することなく行った。 ・おはなしや英語の読み聞かせでも感染症対策の徹底した上で、活動を支援することができた。 ・引き続き、ブックスタート(読み聞かせ)再開に向けて、感染状況の様子をみながら関係課と調整中である。 ・対面朗読サービスは、密を避けるため、広い部屋で距離を取って行った。また、2部屋を使ったZoomによる対面朗読のテスト運用を行った。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策についてポスター等で周知することで、意識の向上に寄与している。 ・コロナ禍でも、市民へ読書の機会を提供できた。 ・読み聞かせボランティアは参加者とのやりとりなどによって参加する楽しみを実感してもらっている。ブックスタート(読み聞かせ)の再開を楽しみに活動再開の案内を待つ声もある。 ・既存の対面朗読室があるものの狭いため、部屋を別に確保しなくてはならない。

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第1節 利用制限の基準作成

- 利用制限のガイドライン・基準づくりと利用者への周知
- 利用制限下における利用継続に向けた工夫
- ボランティアへの配慮

	R2年度に実施したこと	<p>地域と学校パートナーシップ事業、子どもふれあいスクール事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬に「ガイドライン」を作成し、各校に送付した。「ボランティア受け入れ」に係る要件や、「ふれあいスクール」実施上の留意点などを具体的に示し、各校の実情に応じた形で取組が進められるようにした。 ・11月以降は、感染症対策の徹底を図った上で、研修会を行い、コロナ禍における事業の進め方について一層の理解促進を図った。 ・2月に上記事業の推進に関わる「新型コロナウイルス感染症対応フロー」を作成し、各校に送付した。 <p>若者支援センター「オール」（以下、「オール」とする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育施設利用のガイドラインや万代市民会館の利用基準に基づいて活動をした。HPへの掲載や掲示物により、利用者へ周知した。 ・オープンスペース（居場所スペース、学習スペース）については、座席を減らすなど、感染対策を徹底し、継続した。 ・臨時休館や高校の休校に伴う利用者の欠席状況について、速やかに電話連絡ができる体制を整えた。 <p>芸術創造村・国際青少年センター「ゆいぽーと」（以下、「ゆいぽーと」とする）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「青少年施設における宿泊研修利用受け入れガイドライン」などを策定し、その内容について市や施設のホームページ、館内掲示等で周知した。 ・身体接触を前提としていた青少年体験活動プログラムについて、接触を避けて実施できる方法に変更した。
地域教育推進課	R3年度に実施したこと	<p>地域と学校パートナーシップ事業</p> <p>感染対策を十分に講じた上で、グループワークなどを取り入れた研修を行い、コミュニティ・スクール導入を見据えた事業の在り方について理解促進を図ってきている。</p> <p>子どもふれあいスクール事業</p> <p>例年対面式で実施している年3回の研修会については、1・2回目をオンデマンド（DVD配付・ネット視聴）とし、3回目は人数制限をして対面式とした。</p> <p>「オール」</p> <p>臨時休館や利用者の欠席状況について、職員間やユースアドバイザー、支援関係機関（NPOなど）と速やかに連絡がとれる体制を整えており、9月の臨時休館時には支障なく対応した。</p>
	成果と課題	<p>地域と学校パートナーシップ事業</p> <p>感染症の影響を受け、全体としてボランティアのべ人数は減少したものの、各校では「ガイドライン」を踏まえながら、地域と学校が連携・協働した取組が無理のない形で進められるようになってきている。校内での活動が難しくなった分、登下校の見守り・安全確保にかかわるボランティア数が増えるなど、地域住民の「できることに取り組んでいこう」という思いの高まりも感じられる。</p> <p>子どもふれあいスクール事業</p> <p>運営主任・ボランティアと「感染症対策を講じての活動の在り方」などについて直接、話し合いをし、あわせて、他地区・他校での様子の情報提供を行った。これらにより、学校職員や地域の関係者がより安心して活動できるようになり、学校によっては、前年度よりも参加児童数が増えたところもある。</p> <p>「オール」</p> <p>オープンスペースには出入りが多く、確実な手指消毒の実施の確認や検温の把握が難しい現状にあったが、利用者の多くが基準に沿って利用していたため、特に問題は生じていない。</p> <p>「ゆいぽーと」</p> <p>コロナ禍にあっても引き続き青少年へ体験活動の場と機会を提供することができた。</p>

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第2節 ICTを活用した「つどい、まなび」

- 社会教育施設における通信環境の整備と職員の習熟度向上
- オンライン会議アプリを活用したスマホ講座の実施
- 対面可能時期での関係づくり、仲間づくり

生涯学習センター	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月より生涯学習センターと中央公民館で連携し、オンライン活用推進(Zoom)支援チームを結成し、活用した会議や講座開催について助言と支援を行った。活用に向けて職員対象に体験会を開催、職員は同チームの助言・支援を通してZoomを活用した講座等に取り組むことができた。オンラインによる講座を可能とする機器の整備を行ったほか、職員は遠隔講義による講座実施を通じて習熟度向上に努めた。 ・学習相談ボランティア「ひだまり」は、定例会やほかの学習支援活動は継続しながら、関係づくりを続けた。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度から引き続きオンライン活用推進(Zoom)支援チームによる活動支援を行った。Zoomライセンスや機材貸出に関する支援要請が増える一方、職員の習熟度の向上がみられ基本的な操作等の支援は減少した。 ・学生ボランティアが講師となる市民向けスマホ講座を対面形式で実施した。 ・WEB会議ツール「Zoom」を用いた新潟市生涯学習センター主催事業等への参加を想定し、市民向け基本操作研修を行った。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの各貸室にはインターネットへの接続環境はあるが、Wi-Fi環境が整備されていない。 ・市民ニーズに対応した多様な学習方法が提供できるよう、職員のICT活用の習熟度を向上していく必要がある。
中央公民館	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年7月から生涯学習センターと中央公民館で連携し、オンライン活用(Zoom)支援チームを立ち上げ、職員対象の体験会開催や、オンラインでの会議・講座等の実施を検討している公民館等に指導・助言を行うなど、積極的にZoomの活用を支援してきた。 ・公民館事業では、市内10館がZoomを活用したオンライン講座を18講座実施。その中には、対面形式とオンライン形式を複合した「ハイブリッド形式」の講座も複数含まれている。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級や成人式、地域の茶の間、遠隔地との交流など8事業においてZoomを活用した実施形式を採用したほか、講座の企画会議などでも積極的にZoomを活用した。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が続く中、公民館ではオンラインの活用と同時進行で、飛沫対策をとった上での対面式講座の実施にも取り組んでいるが、一時的にコロナウイルス感染状況が落ち着きをみせたため、オンライン活用への機運が停滞したように思える。 ・オンライン活用は、コロナ終息後の事業展開にも十分活かせるものであるため、コロナの感染状況によらず、積極的に取り入れていく必要があると考えている。
中央図書館	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・19図書館・1地区図書室でWi-Fi環境を整備済み。職員の研修や会議がオンライン会議アプリでの開催が増えたため、オンライン会議アプリを使用できるPCを用意した。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・2部屋を使ったZoomによる対面朗読のテスト運用を行った。 ・夏休み期間中に小中学校の児童生徒がタブレットで学習できるように、中央図書館のビーンズルームのフィルタリングを一部解除した。
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み期間において、児童生徒のタブレット学習環境を提供できた。 ・対面朗読や中央図書館での児童生徒のタブレット学習のみ、オンライン会議アプリや学習に必要なサイト等が閲覧できるよう、フィルタリングを一部解除している。一般利用者へのオンライン会議アプリの許可や、全図書館での児童生徒のタブレット学習に必要なサイトのフィルタリング解除は、回線の負荷やセキュリティ面の検討が必要である。

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第2節 ICTを活用した「つどい、まなび」

- 社会教育施設における通信環境の整備と職員の習熟度向上
- オンライン会議アプリを活用したスマホ講座の実施
- 対面可能時期での関係づくり、仲間づくり

地域教育推進課	R2年度に 実施したこと	<p>「オール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨時休館や高校の休校期間に、相談員が定期的に利用者に電話連絡をし、生活状況を確認し、関係性が途切れないよう取り組んだ。 ・感染拡大期以降で利用が極端に減った利用者に電話連絡をし、関係の継続に努めた。
	R3年度に 実施したこと	<p>地域と学校パートナーシップ事業 地域教育コーディネーターも、統合型校務支援システム（C4th）の「個人連絡」「書庫」の活用を開始した。</p> <p>子どもふれあいスクール事業 研修内容をネット配信した。</p> <p>「オール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談員がオンライン研修に参加するなど、ICTを活用したスキルアップや他地域との連携を図ることができた。 ・昨年同様、臨時休館（9月3日～16日）には、相談員が利用者に電話連絡をし、生活状況を確認して、関係性が途切れないよう取り組んだ。
	成果と課題	<p>地域と学校パートナーシップ事業 地域教育コーディネーターも、事業にかかわるメッセージの送受信や、必要なデータのやりとりができるようになった。</p> <p>子どもふれあいスクール事業 場所や時間を問わず研修を受けることが可能となった。</p> <p>「オール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専用PCの設置やインターネット接続、Wi-Fi環境の整備など施設工事や費用面での課題が残る。利用者への対面での支援を重視しているため、ICT機器の活用は、今後検討する。 ・職員の感染防止のため、オンライン会議（Zoom会議）を視野に入れた関係機関との諸会議の持ち方について検討する。 ・若者支援センターのねらいに基づき、利用者が来所し直接面接をすることに重点を置いて活動している。家から外に出ることや規則正しい生活リズムを身に着けたり、対面で話したりすることを通じて、社会的自立を目指している。また、面接予約の電話をすることも重要なスキルと位置づけ、これまでも成果を上げているといえる。 ・電話対応については、生活の状況確認や面接予約程度にとどまっており、「電話相談」に至るまで長時間深く対応しているわけではない。また、電話内容によっては、他機関の紹介など相談そのものに踏み込んだ対応は、現段階では行っていない。

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第3節 ICTを活用した「つどい、むすび」

○メールやチャット、LINE等のメッセージアプリの活用

例) 図書館レファレンス業務、ボランティア間のメーリングリスト、若者の居場所等

生涯学習センター	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット(かんたん申込)以外で申し込みのあった、にいがた市民大学の受講者を対象に、連絡用としてメールアドレスの登録を促した。 ・「大人向けプログラミング勉強会」ではメーリングリスト活用により、講師、ボランティア、センター担当職員が連絡を行っている。また、勉強会もビデオ会議アプリ「Zoom」の活用により実施している。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・にいがた市民大学の広報に新潟市公式LINEの活用を開始した。 ・メーリングリストやオンラインの活用が整っている「大人向けプログラミング勉強会」は引き続き活用を継続した。
	成果と課題	<p>「大人向けプログラミング勉強会」のメーリングリストの活用は、連絡手段として十分機能している。勉強会についても、ビデオ会議アプリの活用が有効に行われている。一方パソコン支援ボランティアや生涯学習センター相談ボランティア「ひだまり」では、メール以外に電話やFAXなどでの対応もあり、連絡手段が煩雑となっているが、相手に合わせた情報共有をすることができた。</p>
中央公民館	R2年度に実施したこと	20代から30代の方を対象とした「ユースセミナー」の企画会議を試験的にLINE上で行った。
	R3年度に実施したこと	令和4年3月の実施に向け企画。内容は20代から30代の若者が興味を持つ話題について、学習や意見交流ができる機会とする予定。オンラインをどの程度活用するかは未定。
	成果と課題	<p>昨年は講座の企画会議を実験的にLINEで実施したが、若い世代は、実際に対面しての会話より、文字での会話の方が積極的に発言する傾向が強いと感じられた。公民館はZoom等のオンライン活用に偏りがちだが、若者向けツールは様々あるので、視野を広くもって事業へ取り入れていきたい。</p>
中央図書館	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターの実施に向けて準備を進めた。 ・子育て応援アプリを活用した子育て応援情報の発信を継続した。 ・メールによるレファレンスを継続した。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ツイッターで様々な図書館情報を発信した。 ・市の公式LINEで図書館の子育て設備など乳児期から図書館サービスの発信を行った。
	成果と課題	<p>臨時休館中でもメールでのレファレンスを受け付けることにより、市民への情報提供を行うことができた。</p>
地域教育推進課	R2年度に実施したこと	オールにおいて、取組み紹介等でのLINEの活用を検討した。
	R3年度に実施したこと	オールにおいて、関係機関やユースアドバイザーのメーリングリストを利用し、会議の開催案内や出欠のとりまとめ、臨時休館や変更点などの連絡をスムーズに行った。
	成果と課題	<p>オールにおいて、スムーズに連絡を取り合うために、関係機関やユースアドバイザーなどのメーリングリストやLINEグループは有効であると考えられる。利用者に対しては、基本方針(対面)に基づき、LINE等のSNSを活用した施設の機能やイベントの情報発信を行うことで施設の利用を促すとともに、双方向のコミュニケーションツールとしての運用を想定した予算、相談スキル、機材や利用方法などの整備を検討する。</p>

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第4節 大切にしている直接的「つどい」

- 避難所としての社会教育施設（利用者と職員の共通理解）
- 新型コロナウイルス感染症に関わる学習等を通して市民にとって頼りになる施設へ
- 社会教育施設利用者間のつながりやすい環境づくり（Wi-Fi環境の整備）

生涯学習センター	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に関する講座として、にいがた市民大学でプレ講座「皆で知ろうコロナウイルス感染症」、「ウイルス禍と認知症～新潟県の現状～」を実施した。 ・生涯学習ボランティア研修会において、「日常生活に必要な感染症対策」について研修を行った。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB会議ツール「Zoom」を用いた新潟市生涯学習センター主催事業等への参加を想定し、市民向け基本操作研修を行った。 ・新型コロナウイルス感染症に関わる講座としてにいがた市民大学「皆で感染症を考えよう」を実施した。
	成果と課題	個人学習室では、Wi-Fi環境が整っていないため、市民の主体的な学習活動を支援するために今後設備を検討していく必要がある。
中央公民館	R2年度に実施したこと	公民館事業では、「新しい生活様式」に基づいた講座形式での実施に努め、受講者には体調管理や飛沫対策への協力を求めているが、新型コロナウイルス感染症について直接的に学ぶ機会を提供した実績はわずか数件であった。
	R3年度に実施したこと	新型コロナウイルスをメインテーマとした講座は実施せず。
	成果と課題	新型コロナウイルスそのものについてを取り扱った講座の実施は大変難しいと思われる。変異株の発生など、未だ解明不十分な部分も多い案件であり、様々な情報媒体で国民に毎日周知されているため、公民館としては安易に手を出すことができないのが現状である。
中央図書館	R2年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金を活用し、図書館資料の充実を図った。（学習支援のための図書購入等事業） ① 学校貸出セットの拡充 ② 団体貸出用図書の拡充 ③ 新しい生活様式の実践に役立つ図書の購入 ・19図書館・1地区図書室でWi-Fi環境を整備済み。
	R3年度に実施したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金を活用し、図書館資料の充実を図った。（学習支援のための図書購入等事業） ① 学校貸出セットの拡充 ② 団体貸出用図書の拡充 ③ 新しい生活様式の実践に役立つ図書の購入
	成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の追加購入によりコロナ禍における市民のニーズに対応した情報提供ができた。 ・図書館のWi-Fiは、調査・研究目的のために設置していること、また全図書館同じ回線を使用しており、通信速度やセキュリティ保持の面から、フィルタリングソフトで制限している。今後、新たな目的での使用を考えると現在の制限について検討が必要。

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第4節 大切にしている直接的「つどい」

- 避難所としての社会教育施設（利用者職員との共通理解）
- 新型コロナウイルス感染症に関わる学習等を通して市民にとって頼りになる施設へ
- 社会教育施設利用者間のつながりやすい環境づくり（Wi-Fi環境の整備）

地域教育推進課	R2年度に 実施したこと	<p>「ゆいぽーと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災デイキャンプやコミュニティ花壇への花植えなど、地域住民が広く参加できる事業を実施した。 ・一部エリアにおいて、指定管理者自主事業により「Niigata City Free Wi-Fi」を提供している。
	R3年度に 実施したこと	<p>「オール」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食可能な範囲を限定したり、飲食を伴う活動を制限するなど感染対策を十分に講じた上で、開放したスペースとして利用できるようにした。 ・対面重視の方針の下、利用者との相談や傾聴、支援者養成の講座、他機関との連携会議をICTを利用せず実施した。 <p>「ゆいぽーと」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災デイキャンプやコミュニティ花壇への花植えなど、地域住民が広く参加できる事業を実施した。 ・一部エリアにおいて、指定管理者自主事業により「Niigata City Free Wi-Fi」を提供している。
	成果と課題	<p>「オール」</p> <p>手軽な若者の居場所として、受験勉強で自習スペースを活用する高校生が増加した。感染対策が取られた安全で静かな環境を提供していく必要がある。</p> <p>「ゆいぽーと」</p> <p>地域の世代間交流を深めるとともに、地域住民が施設に愛着をもってもらえるような事業を展開した。また、事業実施を通じて地元自治会と顔の見える関係を築くことができた。</p>

緊急提言「新型コロナウイルスの影響と社会教育」関連項目の実施状況について

第2章第5節 新しい「つどい まなび むすぶ」のために

○ ICT活用による多様な、より多くの市民の（対面あるいは非対面での）つどい、まなび、むすぶ →→ 新しい学びと社会教育活動の創出

生涯学習センター	R2年度に実施したこと	「にいがた市民大学」開設講座で、従来の対面型講義の一部にビデオ会議アプリなどの活用による遠隔講義（受講者は会場で受講）を導入した。
	R3年度に実施したこと	「にいがた市民大学」開設講座は、オンラインを活用した講師による遠隔講義（受講者は会場で受講）のほか、自宅受講も実施し、市民の生活スタイルに応じた多様な学習方法を取り入れた。
	成果と課題	オンラインによる自宅受講では、音声が聞こえなかった、孤独感を感じたなどの意見があり、職員の機器操作だけでなく案内の技術習得が必要であった。今後も市民の生活スタイルに応じた受講者層の拡大につながる、多様な学習方法について検討していく。
中央公民館	R2年度に実施したこと	市内10館がZoomを活用したオンライン講座を18講座実施。家庭教育学級での実施が多く、その中には、対面形式とオンライン形式を複合した「ハイブリッド形式」の講座も複数含まれている。
	R3年度に実施したこと	市内5館がZoomを活用したオンライン講座を8講座実施。家庭教育学級や成人式、地域の茶の間、遠隔地との交流などにおいてZoomを活用した実施形式を採用したほか、講座の企画会議などでも積極的にZoomを活用した。
	成果と課題	昨年度と比較すると、その実施形式は少しずつ高度なことにも対応できるようにはなっている。ただし、コロナウイルス感染状況が落ち着いていた時期もあり、積極的にオンライン活用にチャレンジする館は少ない状況。積極的な活用を促していく必要性を感じている。
中央図書館	R2年度に実施したこと	
	R3年度に実施したこと	電子書籍の導入準備を行い、令和4年3月に利用開始予定。
	成果と課題	読み聞かせのオンライン講座では、著作権の問題が関わってくるため、実施にあたっては、内容の検討が必要。
地域教育推進課	R2年度に実施したこと	ゆいぽーとにおいて、指定管理者の自主事業によりオンライン形式のワークショップを実施した。
	R3年度に実施したこと	
	成果と課題	ゆいぽーとにおいて、オンライン形式のワークショップをしたところ、市内だけでなく県外在住者の参加があり、普段会うことのない参加者同士の交流が生まれた。